

—第5号—

# 福井の湖沼

# ふるさと 福井の自然



福井県

# はじめに

福井県の自然は、昔から「越山若水」といわれ、越前の緑豊かな山なみと若狭の清らかな水に代表されてきました。そして、その大いなる恵みは、私たち福井県民にうるおいと安らぎを与え続けてきました。

福井の文化や社会を支えてきたこの自然について、県民の皆さんに知っていただくために、この冊子を作成しました。

この本を通して、ふるさと福井の自然を理解し、自然保護の大切さを考えいただきたいと思います。

平成3年3月

福井県自然保護センター  
所長 田辺 甚兵衛

## 目次

1、湖沼の魅力	1
2、福井の主な湖沼	2
三方五湖	4
武周ヶ池	5
大堤	6
北潟湖	7
夜叉ヶ池	8
刈込池	9
3、湖沼の冬鳥たち	10
4、湖沼の魚たち	12
5、湖沼のトンボたち	14
6、湖沼の植物	16
7、湖沼のデータバンク	18
参考図書	
あとがき	

## CONTENTS

# 湖沼の魅力

福井県には大小様々な湖沼があります。私たちの祖先が湖沼のほとりを生活の場として選んだように、これらの湖沼は、今なお私達を引きつけてやみません。魚釣り、ハイキング、キャンプなどのレジャーを楽しむことともあれば、水面の美しい景観にふれ、その自然のたたずまいに感動したりもします。また、漁や養殖など私たちの生活を支える水産資源を確保する上でも大切な働きをしています。

湖沼は私達人間だけでなく、動物や植物にとっても大切なところです。流れがなく静かにたたえられた水は独特の環境をつくりだし、水中に生息する豊かな生物の群集を支えています。湖せましと泳ぎ回る魚もいれば、1本のアシ、1枚の朽ちかけた葉をすみかにしている生物もいます。また、この生物たちを求めて多種多様な陸上の動物もやってきます。

このように私達生物にとってかけがえのない湖沼ですが、生活用水や污水の流入による水質の汚染、湖岸の開発による生物の生息環境の悪化などいろいろな問題を抱えているのが現状です。湖沼のもつすばらしい自然を理解し、その保全に努めることは、今私達一人一人にとって重要な課題ではないでしょうか。



北潟湖

# 福井のおもな湖沼



三国町 大堤 面積 4ha



福井市 武周ヶ池(越前加賀国定公園) 面積 11ha

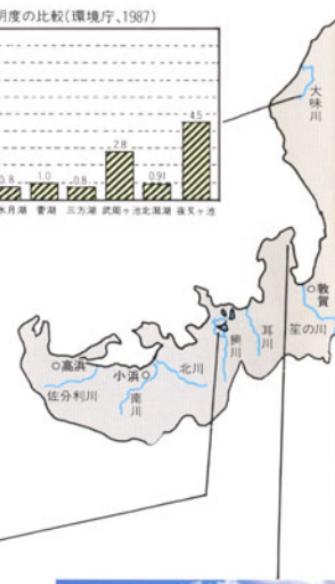
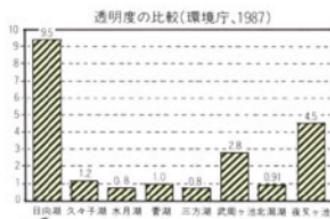


三方町・美浜町 三方五湖(若狭湾国定公園)

面積 久々子湖 140ha 日向湖 92ha 菅湖 91ha  
水月湖 416ha 三方湖 356ha



芦原町 福良池(越前)



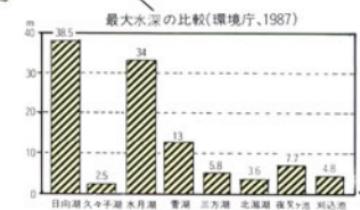
敦賀市明神町 猪ヶ池(若狭)



加賀国定公園) 面積 4ha



芦原町・金津町 北潟湖(越前加賀国定公園) 面積 214ha



大野市 剣込池(白山国立公園) 面積 0.8ha



琵琶国定公園) 面積 5ha



今庄町 夜叉ヶ池 面積 1ha

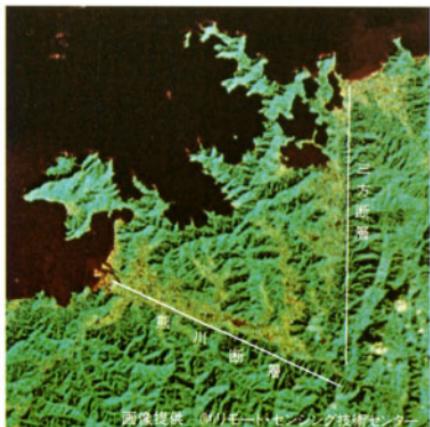


## みかたごこ 五色に映える 三方五湖

若狭湾国定公園の名勝地として名高い三方五湖は、鯉川沿いにのびる三方断層と、北川沿いの熊川断層にはさまれた三遠三角地といわれる地域にあります。このあたりは、リアス式海岸で有名な若狭湾の中でも特に沈降の著しいところです。

五湖の水は、それぞれ含まれる塩分の濃度が異なり、それに応じて海水魚から淡水魚まで様々な魚類が生息しています。また、鳥獣保護区にも指定されている五湖の水域とその周辺は、動物達にとっても楽園となっています。冬には1万羽近くの水鳥が越冬し、それらを捕食するオオワシやオジロワシの姿も例年見られます。

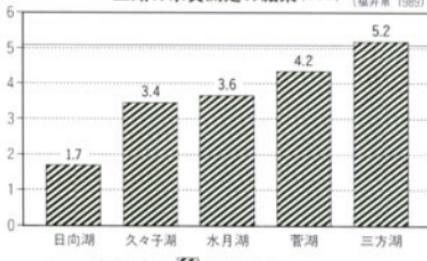
三方五湖が県下で唯一の定期的な飛来地になっている。



画像提供：リリーフ・セーリング扶桑センター  
三方断層と熊川断層に囲まれた三角形の地域を三遠三角地と呼んでいる。

## 五湖のデータ

五湖の水質測定の結果 (COD)<sup>†</sup> (福井県 1985)



湖名	特有の魚種	海水の塩分を1とした場合の塩分の割合(平均)		
		0.25	0.5	0.75
三方湖	コイ、フナ、ワカサギ、ハス アユ、ウナギ、イチモントジナゴ			淡水
水月湖	ボラ、サッパ、サヨリ	0.14		
菅湖	コシロ	0.12		
久々子湖	マハゼ、イシガレイ、ボラ クサフグ、スズキ		0.45	
日向湖	海水魚			0.78

(小林貞七編 若狭の自然観察・1978)

④ 有機汚濁を測る代表的な指標で、CODが大きいほど汚濁が進んでいるといえる。



## 静寂な山間の湖 武周ヶ池

武周ヶ池は六所山、越知山などの山々が連なる丹生山地中部にあります。地滑り性の崩壊によつて流出した土砂が、大味川をせき止めてできたものと考えられており、このことは今なお伝説として近隣の地域に伝えられています。

クリやミズナラでおおわれた湖岸の山を静かに水に写す武周ヶ池は、いかにも深山の池という感じで、休日にはハイキング客や釣り人でにぎわいます。

南側の湖底には、広い範囲にわたってタチヤナギの純林があり、福井県ではこの地区だけに見られるものです。



湖底をおおうタチヤナギ

## 武周ヶ池の伝説

昔このあたりに奥武周という村があった。この村の東にある天賀峯という山が天正18年の12月始めからしきりに鳴動し、村人達は不安におののいていた。

ある日の夜、庄屋の嘉右エ門に「近く山崩れがあるから村人を誘って避難せよ」という夢のお告げがあった。そこで嘉右エ門は村人を誘ったが、誰一人従うものもなく、嘉右エ門夫婦だけが、牛と水がめと茶釜を持って、下流の二ッ屋村に避難した。

その月の14日、夢のお告げ通り、一大音響とともに山津波が起こり、またたく間に奥武周の村は全

滅してしまった。

この山津波が谷をふさぎ、その後「巳の洪水」と呼ばれる大きな洪水が起きたために武周ヶ池ができと伝えられている。

それからは、山津波で全滅した奥武周の人々の靈をとむらうために、今なお10年ごとに法事供養が行なわれており、最近では平成2年が、その年にあたった。



## おお づつみ 冬鳥の楽園 大堤

通称「鴨池」で知られる大堤は、加越台地と福井平野の境にある半人工的な池です。その名の通り、冬季にはマガモをはじめコガモ、オナガガモ、ヒドリガモなどが飛来し、その数は3,000羽以上にもなります。また、天然記念物にも指定されているコハクチョウが時々飛来する他、カモ類をねらうオオタカも姿を見せ、様々な冬鳥を間近に観察することができます。

また大堤は水生植物が豊かなため、昆虫相も豊富です。その中にはタイリクアキアカネ、オナガアカネ、ババヒメテントウなど県下唯一の記録を持つものを見つめとして、注目すべき昆虫がかなり記録されています。



大堤に飛來したコハクチョウ  
(平成2年11月14日撮影)

## 大堤の水生植物

大堤のもう一つの魅力は、水面に繁茂する水生植物群落です。池の沿岸部にはハス、ヨシ、カンガレイ、コウホネなどの挺水植物群落<sup>※1</sup>、中心部の水面にはヒツジグサ、ガガブタ、ジュンサイなどの浮葉植物群落<sup>※2</sup>が形成されています。これほど豊かな水生植物の群落が見られるのは、現在県内では大堤だけです。特に初夏から秋口にかけて純白の花を咲かせるヒツジグサの群落は見事で、訪れる人の目を楽しませてくれます。

※1 水深の浅いところで生活し、根は水底にあり、茎や葉を高く水上に伸ばす植物

※2 葉を水面に浮かべ、根や茎が水中にある植物



ヒツジグサの群落



## 水郷の情緒ただよう 北潟湖

福井県の北端部に位置する北潟湖は、加越台地が侵食されてできた谷に水がたたえられた湖です。

深さ3mぐらいの浅い湖ですが、海に近接し、河口から内陸に向けて細長い形をしているので奥へ行くにしたがって、汽水から淡水へと湖水の塩分が変化しています。そのため生息する魚の種類が豊富で、現在までに36種類（加藤編・1985）もの魚が確認されています。

冬のはじまりとともにマガモをはじめコガモ、ヒドリガモ、キンクロハジロなど多くのカモ類が飛来し、野鳥観察には格好の場所になります。また近くの福良池では、ヨシガモ、ミコアイサなど珍しい冬鳥の渡来が確認されています。

※海水と淡水が混じりあった状態の水



湖面に浮かぶ水鳥の群れ

## 冬の風物詩 柴漬漁



柴漬漁のしかけ

北潟湖の冬の風物詩として知られる柴漬漁は、魚の習性を利用したおもしろい漁法です。まず松の枝などをたばねて湖底に沈めておきます。これが柴漬と呼ばれるしかけです。そして、しかけた柴の中に魚が集まって来る寒い日を見計らって、その回りに網をはり、柴を取り除いてから中の魚を網に追い込んで捕ります。捕れる魚は主にフナで、大きいものはあらいや煮魚、小さいものは、ぶつ切りにして食べるそうです。



## やしゃがいけ 伝説の池 夜叉ヶ池

泉鏡花 作の戯曲「夜叉ヶ池」が、昭和53年に坂東玉三郎主演で映画化されたこともある、全国的に有名になった池です。標高 1,100m、岐阜県との県境にあるせき止め湖で、その位置の特異性と1年中水が枯れないことなどから、多くの人々の注目を集めています。

円形に近い池の周辺は、ブナの原生林で囲まれ、夏はタテヤマリンドウ、ニッコウキスゲなどの可憐な高山植物が登山者を迎えてくれます。また、夜叉ヶ池はモリアオガエルの繁殖地としても有名で、初夏には岸辺の樹木に産みつけられた白い卵塊が数多く見られます。



池の南側を通る登山道

登山道が通る尾根をはさんで左が福井県、右が岐阜県。  
岐阜県側は夜叉壁と呼ばれる大崖壁がそびえる。

## ヤシャゲンゴロウ

ヤシャゲンゴロウは、夜叉ヶ池が世界でただ1つの生息地となっている大変珍しい昆虫です。本州中部より北の高地の湖沼に分布するメスジゲンゴロウの近縁ですが、ヤシャゲンゴロウはメスの体にすじの模様がなく、最近の研究によって固有種と判断されました。

大昔はメスジゲンゴロウと同一種であったものが、長い間他の地域と隔離されていましたために、独自の進化をして、別の種に分かれたものと考えられています。そのため種の進化の仕組みを研究する上で極めて貴重な水生昆虫の1種です。



ヤシャゲンゴロウ



かりこみいけ  
**神秘の池 刈込池**

まわりをブナの原生林に囲まれ、神秘的な雰囲気を漂わせる刈込池（標高1,075m）は、打波川上流の幅ヶ平と呼ばれる台地にあります。背後にそびえる願教寺山からの落岩でおおわれた台地面が、長い間に侵食されて現在の刈込池ができました。

この辺り一帯は、白山国立公園に含まれ、県下でも有数の自然が残っているところです。四季を通して景観にすぐれ、特に新緑や紅葉の時期は、一見に値します。上小池駐車場から刈込池周辺にかけては自然研究路として整備され、ところどころに動植物や自然界の仕組みなどを紹介した案内板が立てられています。



ブナ原生林の中の自然研究路

## 昆虫の宝庫



ルリイトンボ

打波川流域から刈込池にかけては、昆虫の宝庫といえます。山地性の珍しい昆虫が多く、特にトンボ、甲虫、蜂の仲間には、国内でわずかな分布地の一つとなっているものや分布の境界域になっているものが数多く記録されています。

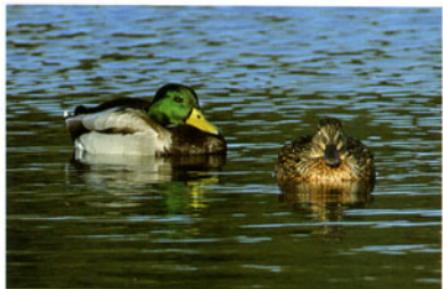
刈込池には高地性のトンボが多く、ここが日本の分布南西限になるカラカネトンボ、ルリイトンボをはじめルリボシヤンマ、オオルリボシヤンマ、エゾイトトンボなどが見られます。

# 湖沼の冬鳥たち

秋から冬にかけてアラスカ、シベリア、カムチャツカなどの北の空から冬鳥たちが渡ってきます。寒さのきびしい北の国は、雪と氷で大地がおおわれて食物がないからです。群れの中には、その年の夏に北の地方で生まれ、初めて渡りをした若鳥も混じっています。

冬鳥たちは毎年同じコースでやってきて、日本各地の野山で冬を過ごしますが、湖沼をすみかとするのは、おもにカモやカイツブリの仲間です。毎年1月15日には全国一斉にガンカモ利鳥類調査が行なわれ、福井県でも北潟湖、福良池、大堤、猪ヶ池、三方五湖など13箇所で調査が実施されています。

## 福井へようこそ—冬の使者図鑑



マガモ (淡水ガモ類 ※1)

オスは緑色の頭と黄色いくちばしがよく目立ち、通称「あおくび」と呼ばれている。家畜としてよく飼育されているアヒルの原種でもあり、県内へ渡来するカモ類の中では最も数が多い。

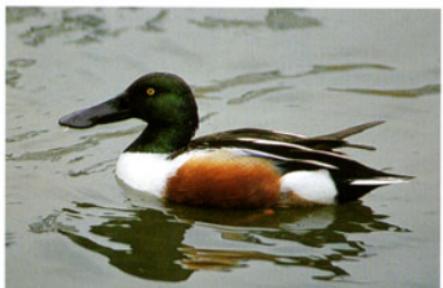
(平成2年度の調査で確認された数…17,780羽)



ミコアイサ (海ガモ類 ※2)

日本に渡来するアイサの仲間では最も小型のもので、頭が白く目のまわりが黒いためバンダのような顔に見える。アイサの仲間は潜水して魚を捕らえる。

(平成2年度の調査で確認された数…37羽)



ハシビロガモ (淡水ガモ類)

体にふつりあいな大きなくちばしを持っている。幅の広いくちばしの先から水を吸い込み、上下のくちばしの合わせ目で水をろ過し、水中のプランクトンや草の実などを食べている。

(平成2年度の調査で確認された数…6羽)



キンクロハジロ (海ガモ類)

頭の後ろに長い冠羽をたらし、金色の目をしているカモで、オスは全身が黒く、腹だけが白い。水中に潜って貝や小魚などの餌をとることが多いが、水草など植物質のものも食べる。

(平成2年度の調査で確認された数…791羽)

※1.水面採餌ガモともいわれ、水面上の餌をとったり、水中の餌を逆立ちしてとり、体全体を水中に入れることはない。

※2.潜水ガモともいわれ、水に潜って餌をとることが多い。餌は淡水ガモにくらべて動物質が多い。



**オナンガガモ** (淡水ガモ類)

名前の通り長い尾を持っているので、遠くからでも見つけやすい。長い尾を水上に立てて、逆立ちの姿勢で餌をとるのが得意で、首も長いため他の淡水カモ類に届かないような餌をとることもできる。

(平成2年度の調査で確認された数…278羽)



**コガモ** (淡水ガモ類)

小型のカモでオスは頭の模様と尻の三角形の黄色がよく目立つ。水辺を歩きながら、枯草をしごいたりして、おもにイネ科植物などの草の実を食べている。

(平成2年度の調査で確認された数…1,718羽)



**ホシハジロ** (海ガモ類)

オスは頭が茶色で胸が黒い。潜水して水中で餌をとるが、他の海ガモ類よりも植物質のものをとることが多く、水草の葉や茎をよく食べる。

(平成2年度の調査で確認された数…501羽)



**ヨシガモ** (淡水ガモ類)

オスの頭はマガモと同じような緑色をしており、頭の形がちょうどナポレオンの帽子のように見える。昼間は他のカモ類の群れに混じって安全な水面で過ごし、夜間から早朝にかけて水田や湿地で餌をとる。

(平成2年度の調査で確認された数…2羽)

## INFORMATION

### 湖沼に飛来するカモ類の数 (平成2年度 ガンカモ科鳥類調査報告書 1986年～1990年の平均)



# 湖沼の魚たち

水中で生活する魚たちにとって、川と湖沼ではどのようななちがいがあるでしょうか。まず、思いつくことは、湖沼の水は川とちがって流れがなく滞留しているということです。そのため湖沼に住む魚は水の流れに逆らって遊泳したり、流れを避けるために物陰にかくれる必要がありません。

また、湖沼における水の滞留は植物プランクトンや動物プランクトンを繁殖させる条件となり、川にはない餌を魚に供給することになります。このようなちがいから川と湖沼では、たとえ同じ種類の魚でも生活場所や餌の取り方が微妙にちがっていることがあります。

## 湖沼の主役—水の中の住民図鑑



ヤリタナゴ (コイ科)

一見フナに似ているが、体が平たく口には一对のひげがある。タナゴの仲間は世界で約40種知られているが、すべて二枚貝の中に産卵する。食べると少し苦みがあることからニガブナとも呼ばれている。

全長 10cm 純淡水魚 \*1



カムルチー (タイワンドジョウ科)

細長い体にヘビのような頭を持ち、性質はきわめて獰猛で、人にすらかみつくこともある。外国から輸入された魚で、北潟湖には1947年にかまぼこの材料として移植された。

全長 30~80cm 純淡水魚



ブルーギル (バス科)

体高が高く体側に7~10本の暗色の横帯がある。外国から移入された魚で、日本には1960年ミシシッピー川で採られた個体が移入されたのが最初であり、近年県内の湖沼で急に見られるようになった魚である。

全長 25cm 純淡水魚

\*1 一生淡水域で生活するもの

\*2 一生の間に海と淡水域を往復するもの

\*3 汽水域や沿海で生活するもの



ウキゴリ (ハゼ科)

とび出た目と大きな口のハゼの仲間特有の姿をしている。肉食性でエビやハゼ類の幼魚を餌としている。この仲間は、普通ゴリと呼ばれ、稚魚はつぐだ煮の材料となる。

全長 13cm 回遊魚 \*2



**ワカサギ** (キュウリウオ科)

スマートな体を持ち味も良いために釣り人に人気がある。冬の北潟道で氷に穴をあけて釣る穴釣りが有名である。北潟湖では毎年、稚魚を放流している。

全長 14cm 回遊魚



**カワヤツメ** (ヤツメウナギ科)

ヤツメウナギ類はセキトイ動物の中でも最も原始的な仲間で、口は下あごがなく吸盤状になっている。えらあなが7対あるため本当の目と合わせて「八目」と名付けられている。

全長 50cm 回遊魚



**シマイサキ** (シマイサキ科)

小さくとがった口と体側にある4本の黒い縦線が特徴的な魚。うきぶくろでグウグウと発音する。塩焼や煮つけになるとおいしい。

全長 30cm 周辺魚 ≈3



**ポラ** (ボラ科)

大型の魚で、体側に数本の暗色の縦線がある。敏捷でしかも眼が良い魚なので、特に大型のものを採集するのは容易でないといわれている。大きくなるにつれて呼び名が変わる出世魚の1つである。

全長 60cm 周辺魚

## INFORMATION

### 福井県の湖沼における淡水魚類の分布

(●は移入魚)

魚種	三方湖	水月湖	久々子湖	北潟湖
純淡水魚				
アカザ	○			
イチモンジタナゴ	○			
ウグイ	○	○	○	○
オイカワ	●	●	●	●
カムルチー				●
コイ	○	○		○
シマドジョウ	○			
ジュスカケハゼ	○			○
タイリクバラタナゴ				●
タカハヤ	○			
タビラ				○
タモロコ	○	○		○
ドジョウ	○			○
ドンコ	○			○
ナマズ	○			○
ハス	○	○	○	●
ヒガイ	●			●
フナ	○	○	○	○
ムギツク	○			
メダカ	○			○
モツゴ	○			○
ヤリタナゴ	○			○
回遊魚				
アマゴ		●		
アユ	○			○

魚種	三方湖	水月湖	久々子湖	北潟湖
イトヨ	○			○
ウキゴリ	○			
ウナギ	○			○
カワヤツメ	○			○
ゴクラクハゼ				○
サクラマス	○			
シロウオ	○			
チチブ	○		○	○
ヨシノポリ	○			
ワカサギ	○			○
周辺魚				
アシロハゼ				○
ウロハゼ	○		○	
クサフグ			○	○
クルメサヨリ	○		○	○
クロダイ				○
コノシロ	○	○	○	○
サヨリ				○
シマイサキ				○
シラウオ	○			○
スズキ	○	○	○	○
ヌマガレイ	○	○	○	○
ボラ	○	○	○	○
マハゼ	○	○	○	○
メナダ				○

# 湖沼のトンボたち

日本は昔「あきつ（とんぼのこと）の国」と呼ばれたこともあるほど世界的に見てもトンボの多い国です。イギリスでは37種しかいないトンボが日本では200種以上、福井県だけでも89種（佐々治編・1985）が記録されています。

幼虫時代を水中で過ごすトンボにとって、水が豊かで、しかもきれいであることは何よりも大切なことです。そのことから考えると、トンボがたくさん飛び交う環境というのは、私達人間にとっても住みやすいすぐれた環境であるといえます。

## 湖沼に舞う—水辺の妖精図鑑



### チョウトンボ（トンボ科）➡

まっ黒な体に黒っぽい金緑色あるいは紫藍色にきらめく大きな羽をもつチョウのような特異な姿をしたトンボ。高度をあげるときにはチョウのように翅を大きく羽ばたきながらヒラヒラと飛ぶ。

#### 大きさ

♂ 腹長22~26mm 後翅長33~38mm

♀ 腹長21~24mm 後翅長33~38mm

#### 分布

本州、四国、九州



### ➡コシアキトンボ（トンボ科）

翅の長さのわりに腹が短く、黒地に黄色ないし白色のはっきりした斑紋がある。和名の腰明きトンボも腰の部分の明るい斑紋からきている。また、この斑紋を日清、日露戦争当時の日本の陸軍の軍帽かズボンの黄色いバンドに見立てヘイタイトンボといわれたこともある。

#### 大きさ

♂♀ 腹長28~33mm 後翅長42mm前後

#### 分布

本州、四国、九州

## オオルリボシヤンマ (ヤンマ科) ➔

日本特産種で、日本のルリボシヤンマの仲間では最大の種で、♂の胸、および腹の斑紋がほぼ完全にルリ色をしている。おもに寒冷な湿原の滝水や高地の水草が繁茂する湖沼などに生息する。

### 大きさ

♂♀ 腹長61~72mm 後翅長51~61mm前後

### 分布

北海道、本州、九州



## ◀カラカネトンボ (エゾトンボ科)

全身が唐金色で、ややがっしりタイプの少し小さめのトンボ。本州では産地が比較的標高の高い山岳地域に限られる。県下では大野市の小池と刈込池だけに生息し、国内の分布南西限となっている。

### 大きさ

♂♀ 腹長31~35mm 後翅長30~33mm前後

### 分布

北海道、本州

## INFORMATION

### 太古の湖に住んでいたウチワヤンマの仲間

丹生郡清水町大森(出村)は、日本一のトンボ化石の産地です。今から約1700万年前(中新世) 清水町や朝日町一帯に、古・糸生湖と呼ばれる湖がありました。湖の中へは、非常に細かい泥が流れ込み、湖上のトンボや湖中のフナの遺体が泥に閉じこめられて化石になりました。これまでにトンボの化石は約20個体(約8種類)発見されていますが、残念なことに、これらのトンボの化石が入っていた地層も、埋め立て用の土をとるための工事でけずりとられ、今では採集が不可能な状態になってしまいました。



(日本で初めて発見されたウチワヤンマの仲間の化石)

丹生郡清水町大森(出村)で発見されたもので、腹部の後半分からなる。この化石にはウチワヤンマ属に特有の扇形の付属物がきれいに保存されている。現在のウチワヤンマより小型で、別種と考えられている。  
(安野・1990)



## 現在のウチワヤンマ(サナエトンボ科)

腹部第8節の側縁が大きく広がって、うちわ状をしている。

### 大きさ

♂ 腹長52~55mm 後翅長41~45mm

♀ 腹長55~60mm 後翅長45~51mm

### 分布

本州、四国、九州

# 湖沼の植物

湖沼へ行くと、家のまわりや野山で見かける植物とはちがった形態や生活様式をもった植物に出会います。体の一部または全部を水の中につけて生育する水生植物と呼ばれる植物です。

一つの湖沼の中にも、浅いところや深いところ、

水温の高いところや低いところ、水底が泥のところや砂のところなど様々な環境があります。同じ湖沼の中でもこのように条件が変わってくると、そこに育つ水生植物の種類にも変化が見られます。

## 湖沼を飾る—水面の彩り図鑑



ハス（スイレン科）

インド原産で、中国から渡來した水草。根茎が肥大したレンコンと果実は食用、花は仏花として使われ、県内では南条町で栽培されている。果実が蜂の巣に似ているためハチスが略されてハスになった。

花期 7月～8月



コウホネ（スイレン科）

水底の土の中にある白くて太い根茎を川にある白骨にたとえてコウホネ（河骨）と名付けられたといわれる。葉の大きさや茎の太さのわりには、小さくてかわいい花をつけ、根茎は止血、強壮に効果がある。

花期 6月～9月



ヒツジグサ（スイレン科）

日本古来のスイレン。名前の由来は、未の刻（午後2時）ごろに花が開くからといわれているが、実際にはそれほど正確ではない。純白の花びらが十数枚重なった花は、大変美しい。

花期 7月～9月



ジンサイ（スイレン科）

若い葉や茎のまわりが、ぬるぬるした寒天のような物質でおおわれ、春から夏にかけこの部分をとて汁の実や酢の物にして食べる。花は小さくて、あまり目立たない。

花期 5月～8月



**トチカガミ** (トチカガミ科)

水面に浮かんだほぼ円形の葉は、裏にふくれた部分があり、浮袋の働きをしている。日本名のトチはスッポンという意味で、つやつやした葉をその鏡に見立ててつけられたという。

花期 8月～10月



**ヒルムシロ** (ヒルムシロ科)

ラグビーボールのような形の葉を水面に浮かべ、かつては水田の強害草であったが、農業の普及で姿を消し、現在では池や沼でしか見られなくなっている。日本名はヒル(絆)のすわるムシロの意味。

花期 6月～9月



**マコモ** (イネ科)

長くて大きな葉をつけている。長さ1cmほどの果実ができ、これを鈔類として食べた時代があったという説もある。天然記念物のヒシクイは、この植物の根茎部を好んで食べる。

花期 8月～10月

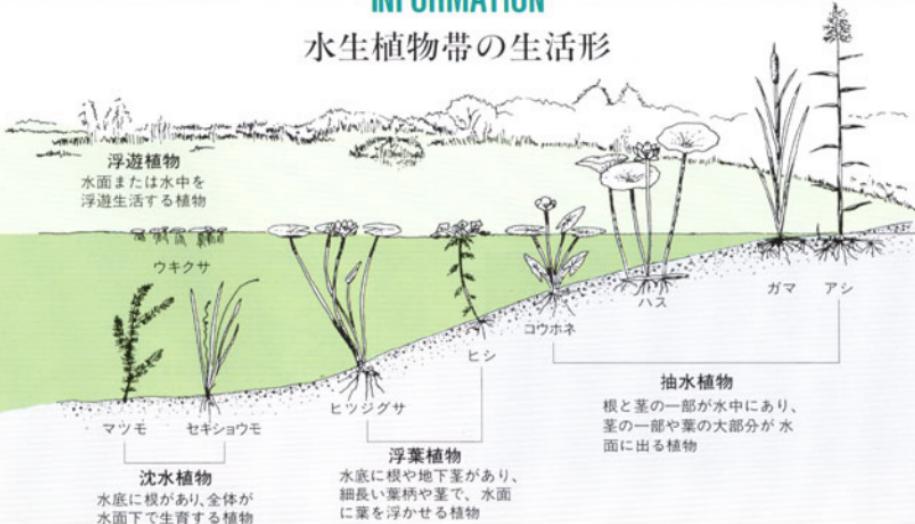


**アシ** (イネ科)

日本中どこへ行っても見られる草で、川岸や池沼などに群生し、高さ2m～3mになる。普通この草をヨシと呼ぶことがあるが、これはアシは「悲し」に通じるので、これを嫌ったためである。

花期 8月～10月

## INFORMATION 水生植物帯の生活形



# 湖沼のデータバンク

## 姿を消していく湖沼の生物たち

### 動物

生物と環境は密接なつながりを持っていて、環境が変化すれば、そこに生息する生物の種類や数も変化します。川や湖沼の岸をコンクリートにしてしまうと、水生植物や水生昆虫、貝、魚、鳥の数などが減り、ひどい場合には絶滅したりします。生物が絶滅する原因には、この他に、強力な農薬の散布、狩猟、採取などのいきすぎがあげられます。



オオコオイムシ



ゲンゴロウ



ヒシクイ



マルタニヤンマ

### 水生植物

#### [県内ですでに絶滅した種]

ナガエミクリ	(ミクリ科)
コバノヒルムシロ	(ヒルムシロ科)
マルバオモダカ	(オモダカ科)
オニバス	(スイレン科)
アザサ	(リンドウ科)



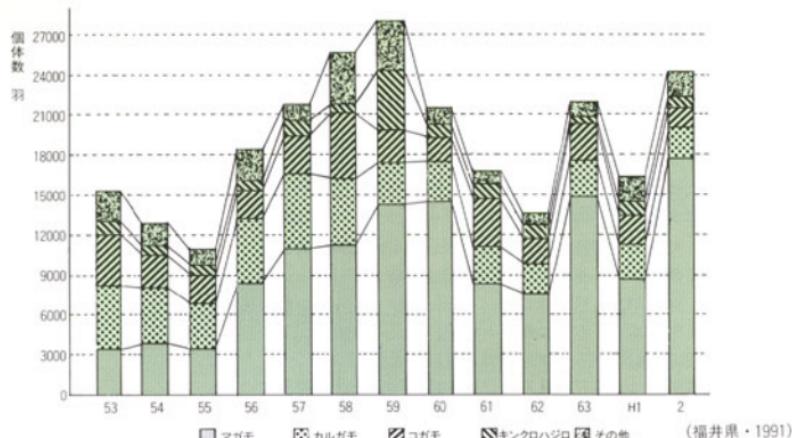
デンジソウ

#### [県内で絶滅の危機にある種]

デンジソウ	(デンジソウ科)
ミクリ	(ミクリ科)
ヤマトミクリ	(ミクリ科)
イトトリゲモ	(イバラモ科)
スブタ	(トチカガミ科)
ヒメコウホネ	(スイレン科)
ガガブタ	(リンドウ科)
ヒシモドキ	(ゴマ科)

(我が国における保護上重要な植物種の現状・1989)

# 福井県における主要渡来地のガンカモ科鳥類の年変化



(福井県・1991)

## 湖沼の一生

人の一生と同じように、湖沼も長い年月の間には姿を変え、やがては消滅してしまう運命にあります。湖沼が湿地原、草原を経て森林に移り変わっていくことを湿性遷移とよんでいます。



## 参考図書

1. 福井県(1976) 福井県自然環境保全基礎調査報告書
2. 福井県(1991) ガンカモ科鳥類調査報告書
3. 福井県(1989) 環境白書
4. 福井県(1985) みどりのデータバンク総括報告書
5. 石田昇三・石田勝義・小島圭三・杉村光俊(1988) 日本産トンボ幼虫・成虫検索図説、東海大学出版会
6. 加藤文男編(1985) 福井県の陸水生物、福井県
7. 川那部浩哉・水野信彦編(1989) 日本の淡水魚、山と渓谷社
8. 小林貞七他編 若狭の自然観察、(財)日本自然保護協会
9. 水野寿彦(1982) 池沼の生態学、築地書館
10. 守矢 登(1990) 科学のアルバム水草のひみつ、あかね書房
11. 大滝末男(1988) 水草の観察と研究、ニューサイエンス社
12. 佐々治寛之編(1985) 福井県昆虫目録、福井県
13. 里見信生編(1979) 北陸の自然誌(山編・野編)、巧玄出版
14. 関口晃一(1988) 高等学校生物、数研出版
15. 杉村光俊(1986) 昆虫の研究トンボの楽園、あかね書房
16. 杉村 升(1990) 野の草花図鑑、偕成社
17. 高野伸二編(1989) 日本の野鳥、山と渓谷社
18. 我が国における保護上重要な植物種及び群落に関する研究委員会編(1989)  
我が国における保護上重要な植物種の現状、(財)日本自然保護協会
19. 渡辺定路(1989) 福井県植物誌
20. 野草検索図鑑編集委員会編(1985) 野草検索図鑑、学研
21. 安野敏勝(1990) 福井県の中新統、糸生累層から産出したウチワヤンマ属化石



自然をとうとび、自然を愛し、自然に親しもう。

自然に学び、自然の調和をそこなわないようにしよう。

美しい自然、大切な自然を永く子孫に伝えよう。

## あとがき

ふるさと福井の自然第5号をお届けします。

本号は、福井県の湖沼に焦点をあてて作成しました。

身近にあって、ふだんは気にもとめないけれど私達の生活になくてはならないもの、自然とは、そのようなものかもしれません。この小冊子をとおして、私達のふるさと福井にはすばらしい自然があることに気づいていただければ幸いです。

なお、今後の参考にさせていただきたいと思いますので、ご意見ご要望などがありましたらお寄せください。

平成3年3月

福井県自然保護センター

### 写真協力

長谷川巖（武生市）

P12—ヤリタナゴ、カムルチー、ブルーギル、ウキゴリ

P13—ワカサギ、カワヤツメ、シマイサキ、ボラ

清水典之（高浜町）

P9—ルリイトンボ

P14—ギンヤンマ、チョウトンボ、コシアキトンボ

P15—オオルリボシヤンマ、カラカネトンボ

P18—マルタンヤンマ

### ふるさと福井の自然（第5号）

平成3年3月発行

編集・発行 福井県自然保護センター

〒912-01 大野市南六呂師169-11-2

TEL (0779) 67-1655・1656

印 刷 朝 日 印 刷 株 式 会 社

この本は福井県自然保護基金によって作成されました。



福井県  
ふくいけん